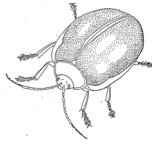


# たんぽう



## 兵庫県におけるクロシオヒサゴカスミカメの記録

里見太輔

クロシオヒサゴカスミカメ *Hyseloecus tamaderai* Yasunaga & Duwal (チビカスミカメ亜科 Phylinae: ヒョウタンカスミカメ族 Pilophorini) は, 神奈川県小田原市産の個体を基に記載され, 三重県, 和歌山県, 宮崎県, 屋久島, 種子島, 沖縄島, 西表島産の標本も同種のバラタイプに指定されている (Yasunaga & Duwal, 2025). 和名の通り黒潮に沿うような分布を示す.

本種は, これまでオオバヤドリギとニンドウバノヤドリギに寄生することが知られていたが, 筆者は最近, 兵庫県で本種の成虫 3 個体をマツグミから採集した. そこで, クロシオヒサゴカスミカメを本県からの初めて記録するとともに, 新たな寄主植物を報告する.

なお, 標本は全て兵庫県立人と自然の博物館にて保管される.

### 【採集記録】

2♂♂ 1♀, 兵庫県芦屋市奥池, 23. IX. 2025, 筆者採集 (図 1a)

上記の個体はアカマツに寄生しているマツグミ (オオバヤドリギ科マツグミ属) の葉をスウィープして得られた (図 1b). 本種の寄主植物としてオオバヤドリギとニンドウバノヤドリギ (オオバヤドリギ科マツグミ属) が確認されていたが (Yasunaga & Duwal, 2025), 複数個体得られていることから, マツグミも本種の寄主植物の一つとなっていることはほぼ疑いない.

末筆ではあるが, 本種を同定いただき, 文献情報の提供及び本文を校閲いただいた安永智秀氏, 標本を撮影いただいた松原 慧氏に心より御礼申し上げます.

### ○引用文献

Yasunaga, T., & Duwal, R.K., 2025. Three new species of the plant bug tribe Pilophorini from Japan (Hemiptera: Heteroptera: Miridae: Phylinae). *Zootaxa*, 5632(3): 531–546.

(Daisuke SATOMI 兵庫県立人と自然の博物館)



図 1. クロシオヒサゴカスミカメと生態環境. a, クロシオヒサゴカスミカメ♂ (芦屋市産, スケールは 1mm); b, 本種が得られたマツグミ.

## 兵庫県におけるシンリョクナガタマムシの記録

里見太輔

シンリョクナガタマムシ *Agrilus viridis* (Linnaeus, 1758) は, 国内では, 北海道・本州・四国に分布し, ヤナギ属, シラカバ属, ニレ属, コナラ属などの幅広い樹種から採集されている (大桃・福富, 2013; 福富ら, 2022).

筆者はこれまでに記録のないと思われる兵庫県で本種を採集しているため報告する. なお, 標本は兵庫県立人と自然の博物館にて保管される.

### 【採集記録】

5♀♀, 兵庫県養父市鶴縄大段ヶ平, 13. VII. 2025, 筆者採集・兵庫県立人と自然の博物館にて保管 (図 1a)

本種の同定は, タマムシハンドブック (福富ら, 2022) を参考に, 内側隆線が短く, 前胸腹板突起が舌状であることからシンリョクナガタマムシとした (図 1b-c). 得られた個体は全て赤みがかった茶褐色であった.

採集時の状況として, 標高 1100m 付近のイタヤカエデ (ムクロジ科カエデ属) のスウィープにより本種を採集した (図 1d).

末筆ではあるが, 本種の同定についてアドバイスをいただいた板倉充洋氏, 山田航氏, 標本を撮影いただいた松原慧氏に心より御礼申し上げます.

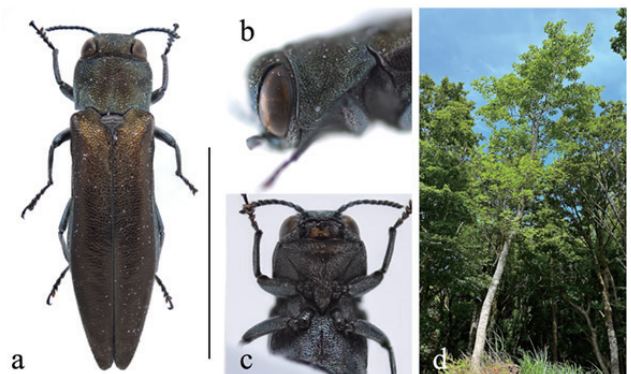


図 1. シンリョクナガタマムシと生態環境. a, シンリョクナガタマムシ♀ (養父市産, スケールは 5mm); b, 内側隆線; c, 前胸腹板突起; d, 本種が得られたイタヤカエデ.

○引用文献

大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本タマムシ図鑑. 120pp. むし社, 東京.

福富宏和・山田航・瑤寺裕・尾園暁, 2022. 森の宝石。タマムシハンドブック. 112pp. 文一総合出版, 東京.

(Daisuke SATOMI 兵庫県立人と自然の博物館)

兵庫県南東部で 2025 年にチュウゴクアミガサハゴロモを撮影

宇野宏樹

チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* は, 中国を原産とする外来種のアミガサハゴロモの仲間である(外村・大原, 2024). 兵庫県においては, 上郡町で 2022 年に発見されている(大貝, 2023). 筆者は 2025 年に本種を兵庫県宝塚市および西宮市で撮影したので, 近年の分布状況の例として報告しておきたい.

1ex. (写真 1), 兵庫県宝塚市栄町阪急宝塚駅構内. 5. X. 2025. 筆者撮影.

1ex. (写真 2), 兵庫県西宮市甲山町付近. 6. IX. 2025. 筆者撮影.

宝塚市産の個体は, 阪急宝塚駅構内に落ちていた個体を撮影したものであり, 西宮市産の個体は, 植物体に静止していた個体である. 本種は外来種とされているので, 今後の動向に注意が必要だと思われる.

○引用文献

大貝秀雄, 2023. 上郡町で近年確認された新参外来昆虫. きべりはむし, 46(2): 32-33.

外村俊輔・大原賢二, 2024. チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977) の徳島県からの初記録. 徳島県立博物館研究報告, 34: 77-80.

(Hiroki UNO 大阪府池田市)



写真 1. 宝塚市で撮影された個体.



写真 2. 西宮市で撮影された個体.

神戸市須磨区でキムネクロナガハムシの死骸を発見

楠本悠貴

2025 年 12 月 14 日に神戸市須磨区で甲虫の死骸を 1 個体見つけた. 家にもって帰ってハムシハンドブック(尾園, 2020) で調べたところ, キムネクロナガハムシに似ていると思った. この昆虫は南太平洋諸島原産で, 国内では琉球に分布していると言われていたので, 兵庫県にいるのはおかしいと思った. しかし, 死骸をひろった場所は, この昆虫の食草であるヤシの木の下だったので, そのヤシの木に付いていたのではないかと思った.

2026 年 1 月 11 日にもう一度同じ場所へ調査に行った. 今回の調査の結果, 頭部, 胸部, 腹部がそろった死骸が 7 個, 頭部が取れた死骸が 3 個, 腹部のみの死骸が 1 個, 上翅のみが 7 枚, 幼虫と思われる死骸を 1 個見つけた. ヤシの葉には食痕が多く付いていた. 単眼鏡でヤシの木を観察したが, 生きている個体は見つからなかった. しかし, 調査をしたヤシの葉には食痕が多く付いていたので, キムネクロナガハムシがヤシを食べたのではないかと思う.



図 1. 神戸市須磨区で採集されたキムネクロナガハムシ.



図 2. 1月11日の調査結果.